

JAPRS

JUN.2020 No.2
初夏号

目 次

第16回スタジオ見学会 「東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス」	1
令和元年JAPRS忘年会	4
令和2年JAPRS新年会	5
2020年JAPRS新人エンジニア育成研修会レポート	6
第3回マスタリングセミナーレポート	8
会員動向	15

第16回 スタジオ見学会「東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス」

令和元年4月に新設された東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパスの第16回スタジオ見学会が賛助委員会主催で下記の通り開催された。

令和元年12月16日(月) 10:00～11:30

I. 施設概要の説明(コンセプト等について) 高田 英男会長

II. TCMスタジオの見学および説明

1. スタジオ機器等について

梅津 達男氏(TCMスタジオ チーフエンジニア、
株式会社ミキサーズラボ)

齊加 博和氏(ミックスウェーブ株式会社)

2. 音響設計について

豊島 政実氏(四日市大学名誉教授)

堀切 達也氏(株式会社ソナ)

III. スタジオ調整室での音源試聴 2グループに分かれて試聴

IV. 施設見学 TCMホール～C301 特大教室

施設概要、スタジオ機器等について、TCMスタジオの計画にも携わった高田会長そしてTCMスタジオのチーフエンジニアである梅津氏から説明がされた。設備の特徴としては、「究極のアナログと最新のデジタルシステムの融合」、「スタジオを基地として、TCMホールやC301教室での演奏を録音出来るシステム(映像と高音質の連動)」、「3Dサラウンドモニター環境」、「施設間コミュニケーションシステムの充実」があげられ、音楽大学で必要とされている機能と設備を上手く融合させていることが実感された。また、ここで学ぶ演奏家に対して、音楽録音の深さ(音質・響き・音の個性化)を理解してもらうという考え方も興味深いものであった。



TCMスタジオ 調整室



サラウンド&ハイトに設置された GENELEC
1238DF

究極のアナログの主役ともなるコンソールには、API Legacy AXS (64 flames) が導入され、その概要についてミックスウェーブ(株)の齊加氏から説明がされた。

3Dサラウンドモニターとしては、GENELECのシステムにより7chの再生環境が構築されていた。(GENELEC 1234A:メイン、1238AC:セン



西原賛助委員長



高田会長



梅津 達男氏



内沼名誉会長



齊加 博和氏

ター、1238DF：サラウンド&ハイト)

音響設計のコンセプト等については、監修をされた四日市大学名誉教授の豊島氏と音響内装の設計施工を担当された(株)ソナの堀切氏から、響きを得るための天井高の確保、残響調整のために施された内装改修、開放感を得るための照明の工夫等が説明がされた。



調整室にて音源試聴会

そして、TCM スタジオ調整室において、内沼氏（スタジオ協会名誉会長）によるビッグバンドのサラウンド音源、高田会長によるフュージョンバンドの Dolby atmos 音源、梅津氏による TCM スタジオで映像と共に録音された音大生によるコンテスト応募に向けた音源の試聴が、参加者を2グループに分けて行われた。

最後に、演奏会などが行われる TCM ホール、そしてリハーサル等に使用される C301 特大教室の施設見学を行われ、スタジオとのデジタル伝送やコミュニケーションシステムについても併せて説明がされた。



豊島 政実氏



堀切 達也氏

第 16 回スタジオ見学会 見学レポート

日本環境アメニティ株式会社

〇はじめに

賛助会員の日本環境アメニティ(株)です。先日は東京音楽大学中目黒・代官山キャンパスのスタジオ見学会に参加させて頂きました。当社は長年 建築音響に携わって参りましたが、主にテレビスタジオやホール・劇場などの防振遮音工事が中心となっております。残念ながら編集・録音スタジオを手掛ける機会が少なく、また機材の整った完成された部屋で製作側の音に触れる事が多くはございません。



メインフロアにて音響設計についての説明の様子

今回の見学会参加を社内公募したところ希望者多数となり、協会様のご厚意で複数名の枠を頂きました事を心より御礼申し上げます。社内より、音楽を聴くのが好き、演奏が好き、どんな部屋なのか興味があるといった者を人選しましたが、前述の通り経験や知識が少ない素人のレポートとなりますことを何卒ご了承下さい。

〇見学の感想

まだ真新しい校舎に足を踏み入れ、久しぶりの製作側の部屋（コントロールルーム）に心を躍らせて入らせて頂きました。最先端の録音機材を採用し、コンクール用の録画もされるとのこと。充実した音響機材が作り上げる雰囲気と 30 数名が入っても充分

な部屋の大きさに感動、これが学校内にある施設なのかと感心しました。機材のスペックは全く理解できていませんが、選定された機器からのクリアな音色、迫力ある音圧に圧倒され、7ch イマーシブ・オーディオ環境の中で音に包まれる臨場感も体験できて大変楽しませて頂きました。また、導入されたシステム活用方法と経緯についてもお説明を伺えた事で大学様並びに計画に携わった方々の熱い思いを感じられました。



TCM スタジオ メインフロア 天井照明

スタジオ メインフロアに移動するとレイアウトや色彩、細部の納まりなどに建築的な視野で興味深々でした。高い天井によって豊かな響きを構築し、その天井からの大胆な照明、大きな窓で室間の隔たりを緩和した開放的なデザインは特に印象的でした。

より良い音空間のために、吸音から拡散音場への内装改修を施したとのお説明も受けました。お引き渡しまでの工期等でご苦労をされた事と思いますが、設計者様、施工業者様がまさにワンチームとなって作り上げるものなのだとあらためて実感致しました。改修を行う前の聴感、意匠はどうだったのか、どのくらい変わるものなのかにはとても興味があり、そのような経験を重ねられる仕事を当社としても増やしていきたいと思います。



TCM ホール

その後、オーケストラの練習が出来るスケールの特大教室や 400 席を備える TCM ホールにもご案内頂きました。ホールにも自然光をやわらかく取り込む構造、素敵な雰囲気でした。最新鋭の音響設備を備え音が回遊し包まれるように設計されているとの事で、是非 機会を設けて鑑賞させて頂きたいと感じました。



C301 特大教室

○おわりに

この度の見学会では素晴らしい施設の見学だけではなく、関わられた方々の生の声を伺えた事がとても勉強になり有意義な1日となりました。この経験を今後の業務に生かしていきたいと思います。有難うございました。

以 上

令和元年 JAPRS 忘年会

令和元年 12 月 11 日（水）、JAPRS 忘年会が、お茶の水ホテルジュラク 2F「孔雀の間」に於いて、参加者 56 名により開催されました。



高田会長

18：30 総務委員会・茂木氏（個人会員）の司会により開宴となり、高田会長の挨拶そして乾杯の発声により歓談の時間が始まりました。

19：30 岡田氏（メディア・インテグレーション）の司会進行により、ジャンケンによる商品争奪戦がスタート、参加者白熱の戦いの末、今年は賛助会員社ミックスウェーブ(株)長岡氏が優勝、そ

して商品を獲得しました。

20：00 中メの時間となり、清水総務委員長挨拶の後、20：30 無事に忘年会終了となりました。



ジャンケン商品争奪戦 決勝ラウンド



優勝者
ミックスウェーブ(株)
長岡 飛雄氏



清水総務委員長



忘年会 歓談の輪

令和2年 JAPRS 新年会

1月22日（水）、令和2年JAPRS新年会が開催されました。本年は、昨年に続き元赤坂・明治記念館 1F「若竹」に於いて103名の参加者により実施されました。



高田会長

18：30 総務委員会・中村氏（ミキサーズラボ）の司会により開宴となり、最初に高田会長が年頭の挨拶を述べられ、その終わりに4月から正会員となる日本コロムビア(株)スタジオ技術部部長の冬木 真吾氏が紹介され壇上にて挨拶をされた。



日本コロムビア（株）
スタジオ技術部部長
冬木 真吾氏



経済産業省 商務情報政策局
コンテンツ産業課 課長補佐
中山 祥氏

続いてご来賓の方々を代表し、経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐 中山 祥氏が挨拶される。

そして乾杯となり、関連団体を代表して一般社団法人日本レコード協会理事 畑 陽一郎氏により乾杯の発声が行われ、歓談の時間となる。

正会員、準会員、賛助会員の他にJAPRSに関連する10団体および8社からの招待者が加わり、会場の所々で歓談の輪が出来る。



一般社団法人日本レコード
協会理事 畑 陽一郎氏



清水総務委員長

20：05 清水総務委員長の中メ挨拶の後、20：20 無事に終了することが出来ました。



新年会の様子

2020 年 JAPRS 新人エンジニア育成研修会レポート

2月22日(土)、「2020年JAPRS新人エンジニア育成研修会～スタジオで働くために今何を学ぶか～」が、専門学校委員会の主催により王子・北とぴあ ドームホールに於いて開催、この研修会は、これから音楽スタジオ業界に就職を目指すJAPRS賛助会員専門学校1年生を対象とし、エンジニアという仕事について、また望まれる人材と業務の内容を知るための研修会で、今年で20回目(新プロ・エンジニア育成研修会も含め)となりますが、昨年からの名称変更とともに内容の視覚化や現場スタッフの参加協力を得ることにより、レコーディングという業務をより分かりやすくなるように構成しました。今回は参加予定者63名のところ57名が参加(内訳は、仙台7名、東京30名、名古屋13名、大阪7名)となりました。

当日は、13:00に専門学校委員会担当者7名、事務局員3名が王子・北とぴあ ドームホールに集合し、13:30からの参加者受付に備え、準備を開始しました。

会場の準備および進行確認を行った後に受付を開始し、参加学生の着席を確認して予定通り13:45より阿部 純也氏(東放学園音響専門学校)の司会のもと、以下の内容で研修会が進行されました。

1. 会長挨拶「スペシャリストを目指して」

高田 英男 JAPRS 会長

ゲスト：中山 佳敬氏 (株)JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
ビクタースタジオ チーフエンジニア



高田会長



中山 佳敬氏

2. 「レコーディングスタジオとはどんな場所か」

山田 幹朗氏

(株)JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
ビクタースタジオ エンジニアグループ ゼネラルマネージャー



山田 幹朗氏

3. 「今スタジオではどんな人材が求められているか」

明地 権氏 (株)サウンド・シティ 営業部長 ゲスト：山田 幹朗氏 / 中山 佳敬氏



明地 権氏



現場のスタジオスタッフが求める人材とは
明地氏とビクタースタジオ山田氏と中山氏

4. 「現役アシスタントエンジニアQ & Aコーナー」

司会進行：阿部 純也氏（東放学園音響専門学校）

参加エンジニア：

安中 龍磨氏 （株）バーディハウス /

国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校 OB

塚本 晃妃氏 （株）サウンドインスタジオ / 東放学園音響専門学校 OG

渡邊 啓太氏 （株）ミキサーズラボ /

専門学校 ESP エンタテインメント東京 OB



司会進行：阿部 純也氏



Q & A コーナー 風景



安中 龍磨氏



塚本 晃妃氏



渡邊 啓太氏

5. 「専門学校委員会からのインフォメーション」

物井 謙行氏（専門学校 ESP エンタテインメント東京）

○2020 年 JAPRS 企業説明会

5 月 16 日（土）会場：東放学園音響専門学校 渋谷校舎

○レコーディングセミナー（スタジオワーク編）

6 月 13 日（土）大阪地区（スタジオ グルーヴ Ast）

6 月 20 日（土）東京地区（サウンドインスタジオ Bst）

6 月 27 日（土）名古屋地区（名古屋ビジュアルアーツ「Pixy Studio」）

※ 上記のイベントは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期（日程未定）。

○JAPRS 技術認定試験

7 月 5 日（日）サウンドレコーディング技術認定試験

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 10 月 11 日（日）に延期となりました。

9 月 6 日（日）Pro Tools 技術認定試験



物井 謙行氏

レコーディングスタジオ業界というものが学生たちに伝わり難くなっている昨今、この研修会に参加したことでこの業界への興味を深め、学校生活で何を学ぶべきかを理解し、レコーディングエンジニアへの第一歩を踏み出されることを願っています。

ご協力いただいた講師の皆様、レコーディング・エンジニア、アシスタント・エンジニアの方々およびスタッフの方々に心より御礼申し上げます。

第3回 マスタリングセミナーレポート

(株) ミキサーズラボ
加藤 拓也

2月15日(土) サウンドインスタジオ Bst にて、「第3回マスタリングセミナー」がJAPRS主催、オタリテック(株)の協力で開催されました。

このセミナーは、現在マスタリング業界の一線で活躍されているマスタリングエンジニアが、同じ楽曲をマスタリングし、それぞれのアプローチを聴き比べするという、かつてない企画が好評になり、今回で3回目の開催となりました。

今回は、Ⅰ部「マスタリング音源試聴」、Ⅱ部「マスタリングエンジニアによるトークセッション」、Ⅲ部「マスタリングにおけるAIの可能性について」の3部構成で行われました。



高田技術委員長

まず、Ⅰ部の「マスタリング音源試聴」では、Bstのコントロールルームにて、JAPRS会長/技術委員長 高田 英男氏による主旨説明の後、ワーナーミュージック・マスタリング 菊地 功氏の司会で、

- 有限会社エフ/藤田 厚生氏
- 株式会社ポニーキャニオン/多田 雄太氏
- 株式会社キング関口台スタジオ/上田 佳子氏
- 日本コロムビア株式会社/佐藤 洋氏



司会進行: 菊地 功氏

以上、4名のエンジニアが紹介され、以下の流れで進行了しました。



藤田 厚生氏



多田 雄太氏



上田 佳子氏



佐藤 洋氏

※マスタリング音源はすべてProToolsに取り込み、ラージモニター(NES421C)、ニアフィールド(PMC/twotwo.8)の双方で、音源毎のレベル調整も行わず同一ヴォリュームでの試聴となりました。

1. ミックス・マスター音源(96KHz / 32bit WAV File)の再生



会での音源はPro Toolsに取り込み再生

今回は、平成31年3月に開催された、第30回NHK技術交流会にて内沼 映二氏によっ

て録音・ミックスされた「チュニジアの夜」（墨田川高校吹奏楽部 指揮：鶴飼 奈民）が課題曲として使用されました。

2. マスタリング済み音源（96KHz / 24bit WAV File）の試聴



PMC twotwo.8

藤田氏、多田氏、上田氏、佐藤氏の順で、マスタリングの解説の後、試聴。

今回の課題曲は、前出の内沼 映二氏によって録音、ミックスされた墨田高校吹奏楽部による「チュニジアの夜」です。

どの音源も、ミックス・マスターのダイナミックレンジの広さが活かされた中へ、各エンジニアの個性が注入され、全体の響き、スピード感、音色の粒立ちの違いを体感しました。

今回は 96KHz/24bit の WAV ですが、他のフォーマットであればアプローチがどういったものになるのか興味が湧きました。



音源の試聴風景

Ⅱ部の「マスタリングエンジニアによるトークセッション」は、Bstのメインブースに移動し、菊地氏の進行で、今回マスタリングをしていただいた4人のエンジニアとのトークセッションでした。

進行役の菊地氏や受講者から4人へ、使用している機材、今回の音作りのテーマ、普段の作業をする上で意識している事、今後の展望、ミキサーへの要望等の質問があり、各エンジニアの思いが語られました。



トークセッション風景

印象に残ったのは、使用機材のところで、モニタースピーカーが全員違い、DAWやハード機材、システム構成も四者四様で作業されていた点、それぞれの仕事現場や立場に立脚した今後の展望が多様な内容で、大変参考になりました。

共通して語られていた事は、どのようにしたら最良の作品にできるのか、自分の感性や主観のみで作業するのではなくクライアントやリスナーの事を想って作業をしているとの事で、ミキサーへの要望に対する答えも、作品の質を共に高めたいという思いから来る内容でした。

Ⅲ部「マスタリングにおけるAIの可能性について」では、Bstのコントロールルームに移動し、菊地氏の進行で、昨今話題になっている、AIがマスタリングした音源を試聴しました。

まず、株式会社メディア・インテグレーションの前田 洋介氏による iZotope 社のマスタリングツール「Ozone 9」の解説があり、「Ozone 9」の AI 技術である「Mastering Assistant」機能には MODULES、LOUDNESS&EQ、DESTINATION という 3 項目の設定があり、今回のマスタリングセミナーの課題曲「チュニジアの夜」を以下の設定別で比較試聴しました。



前田 洋介氏

1. MODULES : Modern
LOUDNESS&EQ : Manual (Medium)
DESTINATION : Streaming
2. MODULES : Modern
LOUDNESS&EQ : Manual (Medium)
DESTINATION : CD
3. MODULES : Vintage
LOUDNESS&EQ : Manual (Medium)
DESTINATION : Streaming
4. MODULES : Vintage
LOUDNESS&EQ : Manual (Medium)
DESTINATION : CD

4 種類とも EQ やコンプレッサーの値に大きな差異はあまりなく、ミックス・マスターと MODULESDES の違いによる音色の違い、DESTINATION の違いによるレベルの違いに差がありました。「Mastering Assistant」機能はあくまで、"Assistant" であるため、各パラメーターの変更も後でできるようになっています。また、リファレンスとなる音源を読み込ませ、その音源の音質に近づけるような設定もあります。

エンジニアやユーザーが、マスタリングの方向性の参考にしたり、バジェットの都合等で時間がかけられないタイトルなどで利用するのに有効かと感じました。オンラインで、AI が自動でマスタリングするサービスが既に出始め、AI の精度も、技術の進化に伴い向上していく中で、マスタリングのクオリティ向上に共存共栄できるようにしていければ良いなと感じました。

まとめとして、ハイレゾ、サブスクリプションなどの試聴環境やフォーマットの多様化、それに伴う制作環境の変化、AI の登場によってマスタリングのあり方も問われている状況で、今回のセミナーの 4 人のエンジニアの方々の音の個性、思いを伺い、より良き作品を仕上げる最終盤の工程であるマスタリングという作業の重要性を、あらためて感じる機会となりました。

最後に、JAPRS 事務局、技術委員会の皆様、サウンドインスタジオのスタッフの方々に感謝の意と、今回のセミナーに参加された 4 名のマスタリング・エンジニアの皆様に敬意を表するとともに、深く御礼を申し上げます。

第3回 JAPRS マスタリングセミナー・レポート

JAPRS 技術委員長
高田 英男

JAPRS マスタリングセミナーは今回で3回目となるセミナーであり、講師のマスタリングエンジニアをどなたにお願いするのか、更に、音源の選択およびマスタリングへのテーマについて、詳細を技術委員会にて検討し進行していった。

特に、第1回、2回は「AI-CREWS」ロックバンドの音源であり、リズムバランス、音色の方向性および歌のバランスなど、マスタリング後の完成形が見え易い音源であった。今回は高校吹奏楽部による演奏であり、講師マスタリングエンジニアの皆様には、音創りへの完成形が掴み難く、難しい音源であったのではとセミナーでの音源試聴前には感じていた。しかしながら、各マスタリングエンジニアから音源試聴前にマスタリングの方向性をプレゼンしていただき、そして音源試聴に入ったのだが、それぞれが目指す音創りの方向性が明確に音として表現されて伝わり、第一線で活躍されているマスタリングエンジニアが持つ技術力の凄さをあらためて感じた次第である。

更に各プラグインソフトを使い、デジタル技術の力を使い込んだ周波数帯域管理・レベル管理など、今の時代ならではのマスタリング力も感じた次第である。

Ⅱ部の「マスタリングセミナー・トークセッション」では、マスタリング業務に対する取り組み&考え（機材・システム、クライアント要望への対応の仕方）など司会の菊地氏からの質問に答える流れでトークセッションが始まり、その後は参加された皆様からの質問に対して回答をいただいた。今の時代の流れでオールデジタル化することで、シンプルなシステムを組み、高効率・高音質化を目指す人もいれば、クライアント要求によりアナログ機材を駆使して、拘りの音創りを目指す人もおり、エンジニアそれぞれのマスタリングへの拘るポイントによる作業環境の違いや、マスタリング業務への思いなど、大変深い話を伺う事が出来た。

Ⅲ部のテーマは「マスタリングにおける AI の可能性について」で、(株)メディア・インテグレーション 前田氏から AI マスタリングソフト iZotope 社のマスタリングツール「Ozone 9」の基本機能について説明をいただき、それに続いて菊地氏が事前に AI ソフトを使用し作成したマスタリング音源（4種）Modern CD、Modern Streaming、Vintage CD、Vintage Streaming の各パターンを試聴。（*楽曲の頭から15秒を解析対象とした。）

個人的な試聴感想ではありますが、音量感、音質感（派手さ）など十分に説得力があり、AIを使った音創りに対して大変興味を持つ結果であった。

（Modern・Vintageの音質差異、CD・Streamingの音質差異もなるほど…と言う感じである。）

但し、前田さんからの事前説明でもありましたが、あくまでも AI は音創りへの方向性を提案する事であり、その提案をどの様に解釈し使用して行くかは、あくまでも人であり、人間の感性が更に問われると感じた。

最後になりましたが、JAPRS マスタリングセミナー3回の開催を通じて、第一線で活躍されているエンジニアの技術力・業務に対する深い思いを痛感すると共に、マスタリングセミナーを通して、各社マスタリングエンジニアのネットワークが広がった事に深く感謝申し上げます。

又、今回講師を引き受けて頂きました皆様、スモールモニター・スピーカーを提供

いただきましたオタリテック(株)様、第1回～第3回までマスタリングセミナーの進行を仕切っていただきました(株)ミキサーズラボ/ワーナーミュージック・マスタリングの菊地 功氏に誌面をお借りし、感謝申し上げます。

ーセミナー終了後のマスタリングエンジニアの感想ー



有限会社エフ
藤田 厚生氏

1. 今回のマスタリングで難しかった点
 - ・完成度の高い MIX 作品であった
 - ・課題、目的が指定されていなかった
2. 一番こだわった部分
 - ・ハイエンドフォーマットらしさを出す
3. 同音源の別のマスタリングを聴いた印象、その感想
 - ・各自、目的意識を持っていたこと
 - ・それぞれの目的に沿った結果が出せていたこと
4. 今回参加して良かったと感じた点について
 - ・録音エンジニアからの意見や質問が聞けたこと

「反省」

セミナーという意識をすっかり忘れておりました。

音質や機材等中心ではなく、もう少し、アプローチの幅を広げて、プレゼンできれば良かったと反省しております。



株式会社ポニーキャニオン
多田 雄太氏

1. 今回のマスタリングで難しかった点
 - ミックスの「まま」で成立していた点。
 - 仕上がりに対するオーダーが一切なく、ここからマスタリングに何を求められているのだろう、というテーマを見つけるところ。

2. 一番こだわった部分

この音源を手にとっていただくお客様をどこに設定するか、という事をすごく意識しました。私の場合は、この録音の現場であるセミナーに参加しており、実際にどういった方が演奏していて、どういった環境で録音していたかを体験してみました。

今回は高校生の方々による演奏でしたので、その演奏してくれた皆さんが、「プロの録音ってこんなにも素晴らしいものなんだ」とか「自分の演奏、こうだったな」とかを思ってもらいたいと思いました。

まず、パッと聴きで「ハイレゾ」って音いいんだと印象を持ってもらえることと、演奏全体がより鮮明に見えること、という部分でアプローチしていきました。

3. 同音源の別のマスタリングを聴いた印象、その感想

他のマスタリングエンジニアの方がこの音源のどの部分に着目して、どういう音を目指していたかという点が大変印象深かったです。

狙いがそれぞれ違って、結果4人ともに違った音に仕上がっていたので、捉え方ひとつでこうも変わるんだということが面白かったです。

技術力と発想力が合わさってこそ、マスタリングエンジニアとしての個性なんだと思いました。

4. 今回参加して良かったと感じた点について

こういった形で我々の仕事に対して話す機会もないですし、ましてやプロの方々から質問を受ける機会もなかなかありません。また、同じマスタリングエンジニア同士で似たような悩みを持っているんだとか、そういった意味では自分自身のやってきたことを見つめ直す良い場を提供していただけた気がしてます。

貴重な経験をさせていただき、これからの業務の糧になると思っております。



株式会社キング関口台スタジオ
上田 佳子氏

1. 今回のマスタリングで難しかった点

内沼さんのミックスが完成形で、そのままの状態でも何も問題がないミックスでした。

こうした完成形になっている問題のないミックスの場合、無理にマスタリングしようとするとうあという間にバランスが崩れて収拾がつかなくなり、何かが犠牲になってしまいます。そうならないように、常にオリジナルミックスと聴き比べながらマスタリングをしました。音量感で騙されやすい部分でもありますので、モニター音量にもかなり注意をはらいました。

2. 一番こだわった部分

吹奏楽を買う人はどんな人だろうと考えてみたら、現在吹奏楽をやっている人、もしくは過去に吹奏楽をやっていた人だと想像しました。そのうえで、大勢で演

奏する楽しさ、メイン楽器が移り変わっていく面白さ、各楽器が重なった時の迫力などがうまく表現できたらと思いました。

さらに、ミックスを聴いた時に一番印象的に聴こえたブラスの煌びやかな響きが、マスタリング後に変わらないようにと、常に注意していました。

3. 同音源の別のマスタリングを聴いた印象、その感想

私がマスタリングしたものも含め、4者4様でとても勉強になりました。

各エンジニアがイメージしたサウンドと実際のサウンドがリンクし、なるほどと思うことが沢山ありました。こういった方向性もあったのかと、自身のイメージ力（想像力）の乏しさを感じました。

4. 今回参加して良かったと感じた点について

これまでも同様に考えていたところではありますが、聴いた音源からどのようにアプローチしたらいいのか、どのようなイメージで進めていくのか、エフェクターに手を伸ばす前にイメージすること、考えることが、とても重要なことだと改めて実感いたしました。



日本コロムビア株式会社
佐藤 洋氏

1. 今回のマスタリングで難しかった点

- ・リクエストの無い中での方向性の模索

2. 一番こだわった部分

- ・新たな発想からのアプローチで、情景が見える？ような仕上がりを目指した事

3. 同音源の別のマスタリングを聴いた印象、その感想

- ・それぞれ個性が出ていて、素晴らしいと思いました。
とても真摯に取り組んでいることが、良くわかりました。

4. 今回参加して良かったと感じた点について

自分の手掛けた楽曲の仕上がりが、スタジオのラージモニターで、どの様に聴こえるのか興味がありましたし、たくさんの方々からの感想、指摘いただいた事はとても良かったと感じています。同業他社の方々と会う機会もほとんど無い中で、それぞれ取り組み方や手法など、たくさんの事を知ることができ、とても勉強になりました。

スタジオへ来ること自体久しぶりでしたので、感慨深いものがありました。

そして、AIの可能性と、脅威。

会 員 動 向

1. 会員数（令和2年6月1日現在）

正会員（法人）	22 法人	準会員	3 法人
正会員（個人）	13 人		
賛助会員Ⅰ	46 法人	賛助会員Ⅱ	2 法人

2. 入会

①法人正会員

日本コロムビア株式会社 4月1日付

3. 退会

①法人正会員

株式会社グリーンバード 3月31日付

②賛助会員Ⅰ

株式会社ズーム 3月31日付

4. 法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○会員代表者変更

株式会社青葉台スタジオ
 (旧) 清水 三義
 (新) 高橋 孝典

②賛助会員Ⅰ

○法人代表者変更

株式会社エムアイセブンジャパン
 (旧) 村井 清二（取締役会長）
 (新) 村井 幹司（代表取締役社長）

○学校名変更、会員代表者変更

(旧) 仙台コミュニケーションアート専門学校
 (新) 仙台スクールオブミュージック＆ダンス専門学校
 (旧) 坪沼 和寛
 (新) 佐久間 康明

○会員代表者変更

音響芸術専門学校
 (旧) 永井 秀文
 (新) 西尾 嘉高
 専門学校東京ビジュアルアーツ
 (旧) 峯岸 太一
 (新) 五十嵐 貴之

東京スクールオブミュージック & ダンス 専門学校
(旧) 佐久間 康明
(新) 布村 展行

♪ 編 集 後 記 ♪

前期で総務委員長を退任いたしました。
4期8年間 多くの皆様に支えて頂き、ありがとうございました。
今後とも総務委員会を宜しくお願い申し上げます。

Smith

今年是这样言った形でいつもと違う日々を過ごすとは思っていませんでした。新春号には「備えあれば憂いなし」と書きましたが。。。まずは平穏な日々が来ることを祈ります。

pesonai

東京オリンピックの延期決定とともに、世の中の状況が一変し、その中での決算と予算作成の時期を迎えています、コロナ終息まで、皆さま精一杯頑張りましょう。

hair ken short

春の景色をお楽しみせず、せめて旬の食べ物をと思いながらちょっと食べすぎちゃったかな。

mm

***** 総 務 委 員 会 *****

委員長 清水 三義(青葉台スタジオ)

委員 内藤 重利(事務局)

〃 佐藤 賢一(〃)

〃 伊東 真奈美(〃)

【発行人】会 長 高 田 英 男 【発 行】2020年(令和2年)6月

【発行所】一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号 モナーク大久保3F

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

<https://www.japrs.or.jp> E-mail:japrs@japrs.or.jp

【編 集】総 務 委 員 会

【印刷所】株式会社研恒社



JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
<https://www.japrs.or.jp> E-mail:japrs@japrs.or.jp